

教育目標	人格の完成を目指して知・徳・体の調和を図り、平和的な国家及び社会の形成者として資質の向上に努め、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。 ① 自立の精神を養い、正しい判断力と実践力の育成を図る。 ② 豊かな情操の育成と基本的な生活習慣の確立を図る。 ③ 学習意欲を向上させ、生徒個々に応じた学力を伸長する。
------	---

重点目標	“可能性への挑戦” 伸びる力をより伸ばす市高教育の実践 ～グローバル人材育成プロジェクトの発展をめざして～ 市高の目指す6つのキーワード (1) グローバル人材の育成に向けた多様な取組の充実と推進 (2) 主体的・対話的で深い学びの上に立つ、探究力と自己教育力の育成 (3) 自己実現を目指し、より良く生きるためのキャリア教育の推進 (4) 地域を理解し、交流を通して地域に貢献できる人材の育成 (5) 小学校、中学校、特別支援学校等との学校間連携の強化(学びの継続性) (6) 他者と協働して、新たなものを創造する力の育成
------	---

※ 自己評価のABCDについては、教員評価のAを5点、Bを4点、Cを2点、Dを1点とし、5点満点で平均、A:4.0以上 B:3.0~4.0 C:2.0~3.0 D:1.0~2.0と表示している

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題・改善策
	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	(1学年) ・基本的な生活習慣を確立させ自主自立の基礎を育成する。 ・基礎・基本を徹底し、主体的に学ぶ姿勢と学習習慣を確立させる。 ・チャレンジ精神・探究心・達成感・自己効力感の構築を促す。 ・進路選択に向けて主体的に行動させる。	(1学年) ・朝学習や手帳を活用し時間の3点固定を実施し、学習習慣を身につけさせる。 ・教員から率先して挨拶をし、やがて自分から挨拶する生徒に育てる。 ・朝学習や適切な課題の実施により、基礎学力の定着を図る。「スタディサプリ」の活用を含め「自ら学ぶ」ことを定着させる。 ・学校生活の様々な場で多様な生徒の活躍の場をつくる。失敗を恐れず、他者の挑戦を応援する雰囲気をつくる。身近な疑問を大切に探究心を伸ばす。 ・進路講演会や面談を用いて進路選択の考え方や調べ方を身につけさせる。	(1学年) ・生徒アンケート「朝や授業において遅刻していませんか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「きちんと挨拶できていますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合をAB合計で計60%以上、Dの割合を20%以下(できれば10%以下)にする。 ・生徒アンケート「学校へ行くのが楽しいですか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか。」の割合をAB合計で80%以上にする。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計で80%以上にする。	A 4.1 A:19.6% B:73.9% C:6.5% D:0.0%	(1学年) ・生徒アンケート「朝や授業において遅刻していませんか」の割合はAB合計が89.0%と目標の90%に届かなかった一方、「きちんと挨拶できていますか」の割合はAB合計94.5%と、目標に到達できた。引き続き取組を継続し、生徒の基本的な生活習慣の確立をうながし、自立した行動を身につけさせていく必要がある。 ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合はAB合計39.4%、D29.4%と、目標に届かなかった。また、「小テストや補習は効果的に実施されていると思いますか。」の割合はAB合計77.5%、「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合はAB合計で75.2%とどちらも目標の80%を下回った。これらは生徒自身の進路に対する意識と学習意欲に関連しており、進路意識の醸成が不十分だったと考える。今後は進路講演会や進路LHR、面談などを通して進路選択を自分事として主体的に考える姿勢を身につけさせ、学習に対してのモチベーションをあげて学習時間の底上げを図る必要がある。 ・生徒アンケート「学校へ行くのが楽しいですか」の割合はAB合計83.9%と目標を上回ることができた。引き続き学校生活で多様な生徒の活躍の場をつくり、チャレンジ精神や探究心や自己効力感を構築していきたい。学校生活や行事が楽しいだけでなく、探究的な学びや主体的行動に結びつくよう働きかけていく必要がある。
		(2学年) ・基礎学力の定着及び、論理的思考力や読解力の伸長を図る。 ・自らの学びを振り返る習慣を身に付けさせる。 ・行事を通して主体性や協調性を高める。	(2学年) ・朝学の活用により、基礎学力や論理的思考力、読解力を身に付けさせる。 ・学習の記録を振り返り、自らの学びの蓄積を実感させる。 ・修学旅行や市高祭等の大きな行事の成功のために、必要なことを考えさせる機会を持つ。	(2学年) ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合を、D15%以下にする。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか。」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「生徒会行事や学校行事が充実していると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。		(2学年) ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合を、D15%以下にする。 →D15.5%と、おおむね目標を達成できた。今後は学習の振り返りを通して、生徒自身が学習習慣や取組について改善できるよう促していく。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか。」の割合をAB合計90%以上にする。 →AB合計84%と、目標値を少し下回ることとなった。取組の意義について、もう少し丁寧に説明が必要であると感じる。 ・生徒アンケート「生徒会行事や学校行事が充実していると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。 →AB合計91.1%と、目標値を上回ることができた。今後も、学校行事の充実を通して、生徒の帰属意識向上に努める。
		(3年) ・進路実現を達成するために、進路希望を明確にし、自ら取り組める姿勢の定着させる。 ・学校内の学業だけでなく、卒業後お学びへの意識を持たせる。 ・最高学年としての自覚を持ち、責任ある行動をとらせる。	(3年) ・自習室の開放や、隙間時間を有効に活用させ、学力の定着を図る。 ・模試の事前事後指導を行う事で、学力を向上させる。 ・面談や面接指導などを通じて、きめ細やかな進路指導を行い、進路実現に向けて意識を高める。 ・時期に合わせた進路に関する情報をこまめに行い、学習への意欲を向上させる。 ・学習と行事に一生懸命取り組み、充実した学校生活を送らせる。	(3年) ・生徒アンケートの「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合をAB合計85%以上にする。 ・生徒アンケートの「学校に進路指導に関する体制について、満足していますか」の割合をAB合計85%以上にする。 ・生徒アンケートの「市高に入学してよかったと思いますか」AB合計80%以上にする。		(3学年) ・生徒アンケート「家庭学習時間は平均60分以上確保していますか」の割合がAB合計85%以上にする。 →AB合計81.6%と目標に届かなかったが、80%以上になったのは一つの成果と思われる。進路が決まった生徒の時間確保が一つの課題なので、卒業後の学びに向けた学習への意識を高めることが課題である。 ・生徒アンケートの「学校に進路指導に関する体制について、満足していますか」の割合をAB合計85%以上にする。 →AB合計94%と大きく目標を達成できた。自分の意思が強く、アドバイス通りの受験に至らなかった(あるいは塾の指導に乗った可能性もある)生徒も複数いるが、教員のアドバイスに耳を傾けてくれたものと思われる。 ・生徒アンケートの「市高に入学してよかったと思いますか」AB合計80%以上にする。 →。AB合計を98.5%と目標に到達できた。入学の目的はそれぞれであり「通うのが楽しい」を100%とするのは難しいが、この項目は理想としては100%を目指していきたい。そのためにも「相談しやすい」の項目のパーセント上昇を向上することを合わせ、適度な距離で話しやすい環境を整えていきたい。
		(教務部) ・校務支援システムの活用内容の拡大 ・デジタル採点の充実	(教務部) ・利用状況の可視化と重点機能の選定を行う。 ・校内研修を実施(短時間・実務型)する。 ・校務のデジタル化のルール化を推進する。	(教務部) ・校務支援システムの活用機能数を現状より増加 ・教職員の日常業務の8割以上を校務支援システム上で処理 ・成績処理・通知表作成にかかる時間を前年比10~20%削減		(教務部) 【成果】 ・校務支援システムの新機能を積極的に活用し、業務の円滑化を図ることができた。 ・デジタル採点の利用が定着し、採点業務の効率化と負担軽減につながった。 【課題】 ・BYODの活用拡大に伴い、校内のデジタル環境整備および運用体制について引き続き検討が必要である。 ・現在利用している各種アプリケーションの運用状況を整理し、効果的かつ効率的な活用方法を再構築する必要がある。

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題・改善策
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	新しい時代に 対応した教育の 推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	(進路指導部) ・進路実現のために必要な力の伸長が図られるように指導・支援を行う。 ・年々変化する進路環境(共通テスト・大学入試)に関する情報を共有する。 ・校務支援システムの研究(就職用調査書様式変更)を行う。 ・スタディサプリの活用方法を研究する。	(進路指導部) ・各学年との連携を密にし、情報交換に努め、要望に応じた適切な情報提供・共有に努める。 ・大学入試における情報収集・情報提供および共有を行う。 ・校務支援システムの研究を行い、入試結果入力の活用に役立てられるか検討する。 ・放課後や長期休業中の補習の充実を目指す一方で、スタディサプリアを活用した手法を学年と研究する。	(進路指導部) ・各学年複数回の進路講演会・ガイダンスなどを行う。 ・職員及び当該学年生徒へ大学入試等に関する説明会を年間複数回行う。 ・校務支援システムの活用方法を考える。 ・担任の先生に各学期1回以上面談を実施してもらう。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合をAB合計で80%以上にする。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計で85%以上にする。 ・生徒アンケート「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか」の割合をAB合計で85%以上にする。 ・将来を考えるためにインターンシップなどの機会を積極的に紹介する。 ・就職希望者への指導を充実したものとする。	A 4.2 A:26.1% B:69.6% C:0.0% D:0.0%	(進路指導部) ・各学年2回以上の進路講演会やガイダンスを行い、生徒の進路に対する意識向上につなげることができた。 ・職員及び当該学年生徒へ大学入試等に関する説明会・研修会を複数回行い、タイムリーな情報を共有できた。 ・校務支援システムを活用して入試結果入力を行ったが、来年度はスムーズに活用できるように考えていきたい。 ・各学年とも担任の先生方の熱意で面談は十分に行われていたように思う。来年度は面談週間を設けることでさらに充実すると思われる。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合はAB合計で84%で80%以上を満たした。特に3年生の高さが目立った。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合はAB合計で87.2%で85%以上を満たした。学年が進行するにつれ向上していくのは当然のことだろうが、良い傾向である。 ・生徒アンケート「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか」の割合はAB合計で88.3%で85%以上を満たした。3年生で最も高いうえに、1・2年生でも高いことから、担任の先生方の熱意がわかる。 ・3つのアンケート結果から、本校が継続して行ってきた進路指導が一定の評価を得ていることがわかるが、さらに改善を加えていきたい。 ・インターンシップは生徒にしっかりと情報を伝え、機会も豊富となってきた。特に「高校生のための保育の仕事体験」への参加者は県下最多であったことから、生徒の意識の高さと本校の指導体制がマッチした結果である。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	(生徒指導部) ・基本的生活習慣の確立を図る。 ・安全教育の徹底を図る。 ・問題行動・不良行為を未然に防ぐ。 ・生徒会行事の充実を図る。	(生徒指導部) ・挨拶、言葉遣い、礼儀など規律ある態度と規範意識の向上を図る。 ・学年、担任を除く全職員を登校指導に割り当てた安全指導の実施。 ・自転車マナー講習会の実施。 ・スマホ・携帯電話マナー講演会の全学年実施。 ・いじめ実態把握アンケート(年に3回実施)などから、いじめが発見されれば早急に情報共有し対応する。 ・生徒とのコミュニケーションの中で、生徒の微妙な変化に気付く。 ・声掛けを通じた信頼関係づくりを図り、相談しやすい関係を継続して築いていく。 ・生徒指導部会を週1回実施、情報の共有に努める。 ・生徒の自治能力を養成し、生徒会をはじめ自主的な諸活動への具体的な指導と支援を行う。 ・生徒に学校生活の諸問題を自らの手で解決する力を身につけさせるべく、各担当教員との連携を密にして、委員会活動の活性化を図る。	(生徒指導部) ・生徒アンケート「朝や授業において遅刻していませんか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「校内の環境美か活動は適切に行われていると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「キチンと挨拶できていますか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「交通ルールやマナーは守れていると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケート「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていると思いますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート「生徒会行事や学校行事が充実していると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。	A 4.2 A:21.7% B:78.3% C:4.3% D:0.0%	(生徒指導部) ・生徒アンケート「朝や授業において遅刻していませんか」について、AB合計85.6%であった。 ・生徒アンケート「校内の環境美化活動は適切に行われていると思いますか」について、AB合計87.8%であった。 ・生徒アンケート「キチンと挨拶できていますか」について、AB合計95.2%であった。 ・生徒アンケート「交通ルールやマナーは守れていると思いますか」について、AB合計98%であった。 ・生徒アンケート「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか」について、AB合計98.6%であった。 ○職員会議等を通して、職員の共通意識(共通認識)をより高め、生徒への指導のねらいと在り方を職員間で共有する。その上で、生徒の変化に対応した組織的な個別指導を行っていききたい。 ・生徒アンケート「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていると思いますか」について、AB合計85.3%であった。 ○個に応じた指導の重要性は年々増しているが、その範囲は多岐にわたっており、組織的な対応が必要である。職員間での情報共有を徹底し、生徒に寄り添った指導を引き続き行う。 ・生徒アンケート「生徒会行事や学校行事が充実していると思いますか」について、AB合計93.5%であった。 ○生徒会行事については、生徒会を中心に魅力ある学校行事について検討し、多くの生徒が積極的に参加できるよう考えたい。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	(保健部) ・自分自身の生活習慣や心身の状態に気づき、健康的な生活習慣の大切さを知り、健康問題を自ら解決していく態度を育てる。 ・食生活に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。	(保健部) ・専門家による時代に即し、発達段階に応じたわかりやすい講演の実施。 ・相手を思いやることの大切さを生徒間で充実するために、保健委員会が中心となり、アサーティブな人間関係作りを推進するよう働きかける。 ・保健委員会の自主的な活動を援助し、生徒の心と体の健康に関する興味・関心を高める。 ・保健委員の指導や保健だよりを発行し、健康に関する意識の啓発に努める。 ・感染症予防への対応を図る。 ・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得する。	(保健部) ・文化祭・体育祭等の学校行事・保健行事ごとの保健委員会の活動を促す。 ・手洗い場所へ石けんを配置し、手洗い・うがいの呼びかけ、手洗いの意識を高めるなど、感染症予防のための環境整備に努める。 ・発達段階に応じた食生活を理解し、健康で安全に営む力をつける。	A 4.1 A:19.6% B:76.1% C:4.3% D:0.0%	(保健部) ・講演会「自殺予防教育(援助希求)」や講習会「赤ちゃん先生(青年期の性的自立・男女共同参画社会)」を生徒一人ひとりが自分事として捉え、関心を持つことができた。 ・1学期間、「アサーティブ」について保健委員会を中心にカウンセラーから講演会を聞き、各クラスの生徒に伝え、日常生活で実施し、期間終了後にアンケートを取り、受け身ではなく、明確なPDCA計画を実施し生徒主体の人権教育を行うことができた。次年度は以降も年間を通してこのような生徒主体で行える人権教育についての活動を積極的に行っていききたい。 ・生徒と関わるときは人権意識を強く持つように心がけ、日々の授業の中に人権教育につながる内容を取り入れるなど工夫を行った。また職員研修としてLGBTに関する研修を行い、共通理解を図った。 ・デジタルサイネージでの配信、ポスターの掲示、通信、冊子、カードの配布等、小さな活動ではあるが、人権啓発につながることに今後も努めていく必要があると考える。

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題・改善策
①特色化・活性化の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	市立伊丹高等学校の魅力向上	(総務部) ・HP、学校説明会などを活用し、学校の情報を保護者や地域に発信する。	(総務部) ・新入生アンケートに基づき、学校説明会及びオープンハイスクールを周知するための広報活動に取り組む。 ・生徒主体の学校説明を実施するとともに、教員の姿も見えるよう工夫する。 ・HPの内容を充実させ、更新回数を増やす。	(総務部) ・HPの内容更新のスピード化と視覚的向上を図る。 ・学校説明会への参加者を増加させる。 ・学校説明会参加者アンケートの満足度を90%以上に上げる。	A 4.2 A:32.6% B:60.9% C:6.5% D:0.0%	(総務部) ・各部活動の活動内容を更新し、広報を推進したことで、部活動体験の参加者が増加した。 ・学校説明会及びオープンハイスクールに関する情報をHPに掲載し、例年程度の中・高生・保護者が参加した。普通科の定員160名に対して約1,000名の中・高生・保護者が参加したため、これ以上の増加は見込めないかもしれない。 ・オープンハイスクールでは、生徒が発信する機会を多く設けていることもあり、参加者の満足度は非常に高かった。
		(総合的な探究委員会) ・探究活動の充実	(総合的な探究委員会) ・1年生は、スタディサプリの探究講座にて自分の好きをグループで探究する、「興味研究型」を取り入れ、主体性・創造性、協同する力を養う。 ・2年生は、校内独自のプログラムにて個人で探究する「マイ探究」を取り入れ、自らの大切にしているものを探究し、自分と世界の見方が変わるような学びの力を養う。	(総合的な探究委員会) ・思考力・判断力・表現力の向上 ・主体性・学習意欲の向上 ・協働性・コミュニケーション能力の育成		(総合的な探究委員会) 【成果】 ・1、2年生ともに発表の機会を増やしたことで、自分の考えを整理し他者に伝える力が向上した。また、他者の発表を聞くことで多様な視点に触れ、表現方法そのものについても探究を深めることができた。発表を重ねる中で、生徒の主体性や自己肯定感の向上も見られた。 【課題】 ・探究課題の設定において、生徒が社会的意義や実現可能性を十分に検討できるよう、教員側からの体系的なアドバイスや支援体制の充実が必要である。 ・フィールドワークの方法について、事前指導（目的の明確化、調査方法の選択、質問項目の作成など）や事後の振り返りの仕組みを強化し、より効果的な学習活動へと発展させる必要がある。
		(GC・GCC) ・外部機関と連携した探究学習を実践する。 ・探究学習を軸とした教育課程を実践する。 ・実践的英語力の育成のみならず柔軟性やチャレンジ精神を育む。 ・自らの考えを適切に伝えるコミュニケーション能力を伸ばす。	(GC・GCC) ・専門家等の外部機関と連携しながら、国際的・学際的な課題を解決する探究学習に取り組む。 ・海外の高校生とのオンライン交流により物事を複眼的に見つめられる国際感覚を育む。 ・外部講師を招き、生徒の視野を広げるとともに、キャリアプランニング能力を育成する。	(GC・GCC) ・「探究学習を通して自らの成長を実感したか」に対する生徒の肯定的な回答を90%にする。 ・5団体以上の外部機関と連携する。 ・他校の研究授業、研修への職員の参加回数を増加する。 ・卒業時まで英検準2級取得100%を目指す。		(GC・GCC) ・5団体以上の外部機関と連携し、社会とつながりながら、探究学習に取り組む。実践的な課題解決能力や伝達力を育成することができた。 ・GC・GCC独自の取組と探究活動をつなげたため、生徒の満足度が90%を越えるとともに、探究活動の成果の質をあげることができた。 ・他校の研究授業への参加回数は昨年より減少したが、2年生の生徒が8回の外部の探究発表会に参加し、自身の探究成果を発表した。また、探究学習で中高連携を目指して市内8中学を訪問し、多くの中学校教員と協議できた。 ・卒業時に全員が英検準2級程度の英語力を身につけることができた。5名の生徒が英検準1級に合格した。
		(商業科) ・主体的・対話的で深い学びによるキャリア教育の充実を図り、正しい職業観・勤労観を身に付けさせる。	(商業科) ・商店経営実習やオープンハイスクールなどの各種行事を生徒が企画し、運営する。高大連携や外部講師を招いて講演会を実施し、専門的な学びを深める。 ・校外での企業見学、製造体験、フィールドワークを通じて、職業意識を高める。	(商業科) ・イオンモールおよび伊丹郷町館で商店経営実習を実施する。10月の商業科オープンハイスクールでは、生徒が体験授業等の内容について企画・運営する。 ・8月の学校説明会で商業科のPR及び販売実習を行い、10月の普通科オープンハイスクールで販売実習を行う（主に1年生）。 ・教科間および産官学連携事業による商品開発を行う。 ・校外学習において企業の製造現場などを見学および体験を行う。 ・観光ビジネスにおいてフィールドワークを行う		(商業科) ・2年生が主体となり、9月にイオンモール伊丹にて商店経営実習を行った。伊丹郷町でのカフェ実習は3月実施に向けて取り組んでいる。 ・8月と10月の学校説明会・オープンハイスクールでは商品の販売や商業科のPRを生徒が企画・運営した。 ・校外学習において製造体験や施設見学、フィールドワークを行い、ビジネス現場を体験した。 ・新たな取り組みとして、科目「観光ビジネス」において観光プランの作成、それをもとにしたフィールドワークを実施した。
①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	教育相談・支援体制の充実	(保健部) ・生徒の内面的な理解を深めるため、健康相談および教育相談を充実させる	(保健部) ・心の健康面に不安を抱えた生徒を早期発見し、関係分掌と連携し対策に努める。 ・スクールカウンセラーによる教育相談をより充実したものにす。	(保健部) ・日常的に生徒の健康管理に努め、問題生徒のケアに努める。 ・保健部会において生徒状況の十分な情報交換に努める。場合によっては、特別支援委員会のケース会議を行い関係機関との連携や職員の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラー・学年・担任・養護教諭と連携した協働体制を築き、職員全体での対応を図る。	A 4.1 A:23.9% B:69.6% C:6.5% D:0.0%	(保健部) ・保健部会を定期的に開催し、学年と保健室が密に情報交換を行うことができた。また、生徒指導部とも連携し情報交換を行うことができた。 ・各学年団の先生方の生徒に対する対応は十分できており、学校生活の相談ができていたと考えられるが、家庭での悩みを抱えた生徒など悩みが多くなってきたため、より専門性の高いスクールカウンセラーの人数や相談時間を今後は増やし、専門機関との連携がスムーズにできることが今後の課題である。
		(保健部) ・個々に応じた特別な教育的配慮を必要とした生徒の把握、共通理解を円滑に行う。	(保健部) ・入学時出身中学校との連携を図り情報を得る。 ・特別支援教育委員会を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・校内情報共有シートを作成し、支援対象生徒の情報共有と支援計画を行う。	(保健部) ・特性を踏まえた十分な個別の支援教育が受けられるようにする。 ・個別の教育支援計画は、必要に応じて家庭や関係機関の情報共有を行う。		(保健部) ・保健部会、特別支援教育委員会を通して、日常生活に困難が生じている生徒に対する配慮について、共通理解を行った。 ・配慮を要する生徒を対象とした避難経路の確認や避難訓練を実施し、教師間で共有した。 ・全職員が当該生徒の補助道具を操作できるように、動画を作成し共通理解を図った。 ・サポートファイルや療育手帳を有した生徒、保護者とは引き続き学期ごとに連絡を取り合い情報共有を行った。 ・年度当初に職員に対して特別支援コーディネーターの役割、通級についての情報提供を行い理解を促した。
①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	(保健部) ・個々に応じた特別な教育的配慮を必要とした生徒の把握、共通理解を円滑に行う。	(保健部) ・入学時出身中学校との連携を図り情報を得る。 ・特別支援教育委員会を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・校内情報共有シートを作成し、支援対象生徒の情報共有と支援計画を行う。	(保健部) ・特性を踏まえた十分な個別の支援教育が受けられるようにする。 ・個別の教育支援計画は、必要に応じて家庭や関係機関の情報共有を行う。	B 4.0 A:17.4% B:73.9% C:8.7% D:0.0%	(保健部) ・保健部会、特別支援教育委員会を通して、日常生活に困難が生じている生徒に対する配慮について、共通理解を行った。 ・配慮を要する生徒を対象とした避難経路の確認や避難訓練を実施し、教師間で共有した。 ・全職員が当該生徒の補助道具を操作できるように、動画を作成し共通理解を図った。 ・サポートファイルや療育手帳を有した生徒、保護者とは引き続き学期ごとに連絡を取り合い情報共有を行った。 ・年度当初に職員に対して特別支援コーディネーターの役割、通級についての情報提供を行い理解を促した。
		・教員資質向上指標や教職員研修計画等を踏まえた積極的な研修参加により資質向上をめざす。	・教職員として常に学び続ける姿勢をもつ。 ・主体的に計画的に研修に取り組む。 ・他の教員と学び合うことを通じて専門性と実践的指導力向上をめざす。 ・指導方法の工夫・改善を図り、魅力ある授業を展開する。 ・自らの職責やキャリアステージに応じ、様々な課題への対応能力を向上させ、視点を広げる。	・教職員研修計画に基づく研修等とおして、最新の知識・技能を身につけるとともに、教員一人ひとりが自らの教職生活を振り返り、新たな思いで生徒たちと向き合う姿勢を持つ。 ・各専門部や教科、委員会等での小研修等での小研修や各研修での実践や報告の回数を増やす。		・各教員が自身のスキルアップの為の自己研鑽の研修への参加や探究やカウンセリングマインド研修などの研修を充実させ行うことができた。 ・ICT活用、生成AIの活用も含め、各教科において工夫や充実を行い、生徒の学びや活動を推進することができた。 ・探究を意識した横断的な授業展開を各教科で意識し行うようにした。 ・心に不安を抱えた生徒が多い中、担任を中心とし話をよく聞くことができた、一人ひとりの生徒に寄り添い対応することができた。 ・今後、校内における職責や分掌を意識し、対応の幅や視点、考え方をより意識した校内での行動を求めていくことが重要である。
①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	学校を支える組織体制の整備	(総務部) ・保護者・地域住民、有識者などが学校運営に参画することで、「開かれた学校づくり」を実現する	(総務部) ①学校教育目標の達成を目指すPDCAサイクルを構築する。 ②「地域学校協働活動」との一体的推進を進める。	(総務部) ①授業参観等における現状把握をおこなう。学校評価やアンケート結果等の客観的なデータの活用する。 ②学校支援ボランティアとの効果的な連携を図る。	B 3.9 A:15.2% B:73.9% C:10.9% D:0.0%	(総務部) ①コミュニティ・スクールの運営委員会において授業参観週間の内容を見て頂き現状の把握し今後の課題について話し合った。学校評価やアンケート結果等の客観的なデータを活用し、今後の課題について話し合った。 ②近隣小学校において土曜日講座を主催したり、ボランティア活動に積極的に参加したりした。
		①災害時における危険を認識し、日頃から、家庭における防災対策や地域の行事等へ積極的に関わり、状況に応じて自ら考え安全な行動ができるようにする	①危機管理対応マニュアルの見直し ・危機意識・危機管理体制の構築と実践 ⑤ ・勤務時間の適正化を図る。 ・業務改善の見直しを図り、可能な箇所から実行する。	① ・今年度の実施計画の作成と検証 ・災害時に主体的に行動できるためのシミュレーションを行う。 ⑤ ・毎月の勤務時間の平均時間を昨年度よりも少なくする。		(総務部) ① ・防災訓練において、各自がとるべき行動を考えた上で速やかに避難することができた。 ・防災訓練の必要性や災害時の備蓄の確認、体制作りをしていくことや市の消防署とも連携し訓練していくなどより具体的な訓練へと昇華できるようにする。また、防犯等も含めた危機管理の見直しを今後も継続的に実施していく。 ⑤ ・教員の毎月の勤務時間の平均時間は、昨年と比べほぼ横ばい（臨時講師は減少）であった。管理職の勤務時間は減少した。 ・教員のストレスチェック分析結果から、全体では「働きがい」「仕事や生活の満足度」等でのポイントが全国平均に比べ良い傾向にあった。特に女性教員の多くの項目で良い傾向にあった。 ・業務改善を小さな事、できることから実施した。 ・引き続き、落ち着いた職場環境を目指し、勤務時間の適正化に向け業務の見直し等を行っていく。
①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	安全・安心な教育環境の充実	①災害時における危険を認識し、日頃から、家庭における防災対策や地域の行事等へ積極的に関わり、状況に応じて自ら考え安全な行動ができるようにする	①危機管理対応マニュアルの見直し ・危機意識・危機管理体制の構築と実践 ⑤ ・勤務時間の適正化を図る。 ・業務改善の見直しを図り、可能な箇所から実行する。	① ・今年度の実施計画の作成と検証 ・災害時に主体的に行動できるためのシミュレーションを行う。 ⑤ ・毎月の勤務時間の平均時間を昨年度よりも少なくする。	A 4.1 A:21.7% B:73.9% C:4.3% D:0.0%	(総務部) ① ・防災訓練において、各自がとるべき行動を考えた上で速やかに避難することができた。 ・防災訓練の必要性や災害時の備蓄の確認、体制作りをしていくことや市の消防署とも連携し訓練していくなどより具体的な訓練へと昇華できるようにする。また、防犯等も含めた危機管理の見直しを今後も継続的に実施していく。 ⑤ ・教員の毎月の勤務時間の平均時間は、昨年と比べほぼ横ばい（臨時講師は減少）であった。管理職の勤務時間は減少した。 ・教員のストレスチェック分析結果から、全体では「働きがい」「仕事や生活の満足度」等でのポイントが全国平均に比べ良い傾向にあった。特に女性教員の多くの項目で良い傾向にあった。 ・業務改善を小さな事、できることから実施した。 ・引き続き、落ち着いた職場環境を目指し、勤務時間の適正化に向け業務の見直し等を行っていく。